

源頼政の墓

これは、源平戦争（1180–1185）の最初の大戦で亡くなった詩人、政治家、そして戦士の源頼政（1106–1180）の墓である。12世紀に日本の皇室の支配をめぐって競い合っていた2人の氏族、源（源氏）と平（平家）の間の記念碑的な対立だった。

平が1180年に安徳天皇を王位に就かせた時、頼政は彼の氏族のよき相続人、以仁王（1180年）の権利を守るために武器をとった。結果としての宇治の戦いは平等院の近くで行われ、平軍が源を圧倒した。敵の手による捕縛や死の屈辱を受けたくないため、頼政は平等院の扇の芝の芝生で切腹で自ら命を絶った。学者たちは、頼政の死が日本史上初めての切腹であり、これが何世紀にもわたる侍の切腹のモデルになったと信じられている。頼政は亡くなる前に次の詩を書いた。

埋木の花咲く事もなかりしに身のなる果はあはれなりける

頼政の墓は、著名な歴史上の人物にくらべると比較的小さい。彼の死の記念日である毎年5月26日、平等院の僧侶たちは扇の芝でお経を唱えている。訪問者は式典を見学することができる。